

漫画作品に於けるナショナリズムのパラダイム変換 —日本語学習者に見られる典型的日本観への反措定—

本 間 光 徳

わたしは「宇宙戦艦ヤマト」の搭乗員に仮託された＜勇氣＞や＜自己犠牲＞や＜男らしさ＞や＜愛＞や＜献身＞が虚妄であることを体験思想から反すうすることができる。けれどそれを現在の少年少女たちに説得することができるか？

- 吉本隆明 - 1

【要旨】

かつて大日本帝国を表象した戦艦大和、その艦首を飾った「天皇制」の表象たる菊花御紋章。漫画家・松本零士は、戦艦大和をモデルに『宇宙戦艦ヤマト』をはじめ SF 作品を描きつつ、菊花御紋章を描くことを巧みに避け、国体の断絶を図った。戦闘を描きつつも出血場面を描かず、戦争を忌避しつつ、敗者の精神性を賛美する点が松本「ヤマト」の本質である。この本質は、国家主義的ナショナリズムを超越的に否定するが、「日本的心性」を継承しており、その後の漫画作品に影響を与えているのである。「日本的心性」とは、善悪の価値観の外に存するナショナリズムである。日本・日本語学習に於いては、国家主義的ナショナリズム批判を超え、ナショナリズムを俯瞰的に捉えられたい。

【キーワード】

ナショナリズム、表象、死、ロマン化、日本的心性、戦艦大和

1 はじめに

日本研究センター（以下、センター）には1～3学期の午後に「総合運用」があり、様々なテーマで議論が行われている。「総合運用」の下に近・現代史や文化の科目があり、そこでは日本の「ナショナリズム」が屢々議論にあがる。国民国家建設より叙述する日本近代史は、国権論、即ち国家主義的ナショナリズムの文脈を採用することとなり、民権論に代表される民主主義的ナショナリズムが見落とされるきらいがある。民権論とは、啓蒙思想に端を発し、私利私欲を離れて「個」を確立した民が「公」を支える思想である。戦前・戦中の日本の国家主義は、近代化の思想として評価されることもあるものの、軍国主義或いは全体主義として批判されるところである。その一方、民権論も本来はひとびと

の思想かつ運動としてのナショナリズムであるが、国家主義的ナショナリズムのイメージが強いためか、「ナショナリズム」と一括して嫌悪の対象とされることが間々ある。

センターでは、日本の漫画やアニメをきっかけに日本研究に入った学生や、それらをテーマに研究発表する学生が毎年一定数認められ、その日本観には戦前と戦後を断絶したものと捉え前者を批判する、いわゆる戦後民主主義に立脚した批判がよくみられる。また、同様に戦後民主主義に立脚しつつも戦前戦後を連続したものと捉える学生もいる。後者はさらに、現状を「右傾化」と批判する者と、現状の「右傾化」は敗戦後の「左傾化」の揺り戻しであるとする者に分かれる。ただし、これら三者は戦後民主主義に立脚している点では同じであり、民権論に代表される民主主義的ナショナリズムの立場とは異なるものである。

宮崎駿 2013（平成 25）年発表の『風立ちぬ』は、零式艦上戦闘機の設計者・堀越二郎を描いたアニメ作品だが、宮崎の国際的高評価と相まって、同作品をめぐる賛否両論は国内外各方面から湧いた。日章旗が描かれた戦闘機が飛翔する作品に対し戦争賛美との批判が出ることは容易に推測されるだろう。機体の日章旗は、戦争を肯定的に描くにせよ否定的に描くにせよナショナリズムの表象にほかならない。しかし、同作品も他作同様に評価が高かった事実は、公開前の批判の多かった韓国に於ける成功が証明するところである。それは戦争賛美にも戦争批判にもあらず、日本的なるものであり、そこには曖昧な妥協にあらず、異なった視点が在る故ではなかろうか。戦争を描きつつ、国家を主体としないナショナリズム、ひとびとを主体とするナショナリズムを描くところに筆者は第三の視点を見出すところである。

この第三の視点を論ずる上で、筆者は *yamato* に注目したい。*yamato* とは、やまと朝廷の所在地名であるとともに旧国名の大和であり、日本人的精神性が「大和心」や「大和魂」と呼称されるように、「伝統的」日本を象徴的に表象する語である。更に *yamato* は大日本帝国海軍（以下、帝国海軍）の戦艦名であり、戦前のナショナリズムを包括的に凝縮した語とも言える。

本研究は大日本帝国を表象する戦艦大和と「天皇制」を表象する菊花御紋章が、漫画作品内で如何に取り扱われ、また如何にして帝国海軍賛美、戦争賛美という批判を免れているかを論究する。そこには戦前の「ナショナリズム」とは異なる一貫した日本的なるものが認められ、ナショナリズムのパラダイムが変換されているのである。本稿は漫画作品に於けるナショナリズムのパラダイム変換を分析し、現代的ナショナリズム批判に於けるもう一つの視座を提示するものである²。

2 虚妄としての死

ジョージ・L・モッセは、その著書『英霊』に於いて、戦争を神聖視するようになった

歴史的経緯とナポレオン戦争以降の戦死者の増加を関連付けて論じている³。モッセは、兵士の「死」が絵画の中に美しいイメージで再生されると述べ、第一次世界大戦に於ける歴大な死者数とその処置を、埋葬、慰霊、追悼、顕彰の観点から論じるのである。モッセは、第一次世界大戦中の欧州では、男性性が強調され、再生された「死」のイメージにより「戦争は男らしさへの誘いであった」と指摘、更に、第一次大戦後は「戦争を消毒して脚色し、ロマン化するために」、「絵画のみならず、戦争墓地やモニュメントのようなシンボルの組織化が進行し」、それらが視覚的素材として利用されたと指摘している⁴。

漫画作品が視覚的素材たることは論を俟たず、戦争を描いた漫画作品に於いては、モッセが指摘するような「死」のイメージ操作が予期される。その結果表現された「死」は、吉本隆明の言語を借用すれば「虚妄」である⁵。

そこで本稿では、漫画作品『宇宙戦艦ヤマト』を中心に戦争描写を検証し、戦争が「消毒して脚色」され、「ロマン化」されているか否かを検証する。

3 松本零士

まず漫画作品『宇宙戦艦ヤマト』の作者である松本零士について簡単に触れておく。松本零士（本名、松本晟 まつもとあきら）は、父・強氏の第4子として、1938（昭和13）年1月25日、福岡県久留米市に誕生した⁶。陸軍軍人でテストパイロットであった父親の影響が大きく、幼少時代から機械好きで、本人の談によると、6歳の時に「最初に描いた漫画は『潜水艦13号』」であった⁷。終戦後、自衛隊への入隊を拒否し貧困生活を甘受した父親を「本当のサムライ」と尊敬し、自らも「進駐軍兵士がばら撒くキャンディーなどを『食べたくて仕方なかったが、全部下駄で踏みつけて潰した』」⁸。デビュー作『蜜蜂の冒険』は、松本が福岡県立小倉南高等学校一学年に在学中の1954（昭和29）年の作品である。松本によると、「高校二年生からは毎日新聞西部本社で連載も始まったので、卒業までの学費その他は全部、自分で賄うことができ」、「学生服をはじめ頭のとっぺんから足のつま先まで、全部自分で稼いだものだった」⁹。

松本は、1957年（昭和32年）からは上京し下宿生活をしつつ少女漫画を描いたり、アルバイトをしたりし実家へ仕送りを続けた。1960年代に入り、松本はSF漫画を手掛けるようになる。116回連載のヒット作『男おいどん』を経て、テレビアニメ『宇宙戦艦ヤマト』の監督として一際知名度を上げたのは1974（昭和49）年である¹⁰。

4 死の意味付けと戦死

生物にとり死は必然であり、人間も例外なく死を免れない。筆者を含め、存命者は誰も死を体験的に語り得ず、死者にとり死が意味あるものか否かを論じることは想像の域を脱

し得ない。しかし、生きている者は自己のやがて訪れるであろう死に意味を想定することにより、自己の生に意味を見出そうと試みる。

一方、「死」は他者によって意味が付与される側面がある。生存者（遺族など）は、既に死亡した者の死に意味付けをする事により、その死者の生を意味があったものとして納得しようとする。つまり、遺家族が、死者の人生が有意義であったと信じたい心理から、「死」に意味付けをするのである。即ち、そうすることにより「死」という現実を受容するのである。より有意義な意味付けの為にはより大きな目的が有効である。この相対的に大きな目的を希求する遺家族心理が「公」を要求する。その結果が「国の為」や「天皇の為」のような言葉として表現されるのではなかろうか。

意味付与の方法としては、解釈論や伝記、写真や映画、碑や像などの有形媒体によるものの他、伝説や伝承を通じたものなど無形の方法もある。最も古い例を挙げれば、キリスト（イエス）やブッダ（ゴダマ）の肉体的な死は、本人が意味を説いた側面と信奉者が意味を付加した側面が習合し、教典・経典を通して今日に伝承されていると言える。漫画作品もメディアとして「死」に意味付けをする機能の他、既に付与された意味の強化、伝達の機能を果たす。

戦時に於いては、味方の戦意高揚の目的を以て味方の戦死は英雄的に描かれ、悲慘な死後の姿は隠蔽される。戦意高揚の為に敵国の指導者や敵兵は凶悪に描かれ、自国側に罪悪感が生じるであろうと予期される光景は除去、或いは無視されるか、罪悪感を中和する理由付けがなされる。一方、敵方の戦意を喪失させるために、敵方の戦死は無意味で悲慘なものとして描かれる¹¹⁾。

5 ナショナリズムの断絶

視覚的素材が現実的死のイメージを遠ざけ、ナショナリズム的感情、少年的ロマンを刺激する漫画作品のひとつが松本零士の『宇宙戦艦ヤマト』である。『宇宙戦艦ヤマト』は、1974（昭和49）年から翌1975年にテレビアニメが放映され、原作者は西崎義展で、松本は総設定・美術・デザインを務めているが、本稿では、テレビアニメ作品は研究対象から除外する。また、いわゆるヤマト論への脱線を憂慮し、小説やゲーム、遊技機など、漫画作品以外の『宇宙戦艦ヤマト』も除外することを了解されたい¹²⁾。また、より現代的な考察を加える目的で、1998（平成10）年発表の『超時空戦艦まほろば』、2000（平成12）年の『新 宇宙戦艦ヤマト』、むらかわみちお2013（平成25）～2016（平成28）年発表の『宇宙戦艦ヤマト2199』も合わせて参照したい。

『宇宙戦艦ヤマト』はその題名が示唆するよう、帝国海軍の戦艦大和が未来の世界で宇宙戦艦ヤマト（以下、ヤマト）として再生、地球の為に闘うという荒唐無稽のSFであるが、その内容は、放射能による人類滅亡の危機や、敵方ガミラスを旧枢軸国たるナチス・

ドイツに模すなど、戦後民主主義下日本の屈折したナショナリズムの要素が散見され、同要素のみでも議論に値する。また、続編では作品内に殉職者の銅像が描かれており、その意味の分析は、モッセの指摘が現代漫画作品にも適用、通用し得るか否かを判断する良い研究材料である。

本稿はナショナリズムと「死」の描写を論じるのであるが、その前に一点、作品内に散見されるナショナリズム的要素は、戦前のナショナリズムとは断絶した、無邪気な、去勢されたナショナリズムである点は指摘しておきたい。「ナショナリズム的要素」、「去勢された」と言う理由は、ヤマトの乗員は全員日本人と思われるが、地球を代表して宇宙戦争を闘うため、「ナショナル」とは言い難い側面があるからである¹³。また、戦艦大和を再利用するという筋書き自体にナショナリズムの要素が認められるが、戦艦大和のリサイクル品である筈のヤマトの艦首に菊花御紋章は無く、戦前の「ナショナリズム」との断絶が図られていると考え得るからである（図1）。

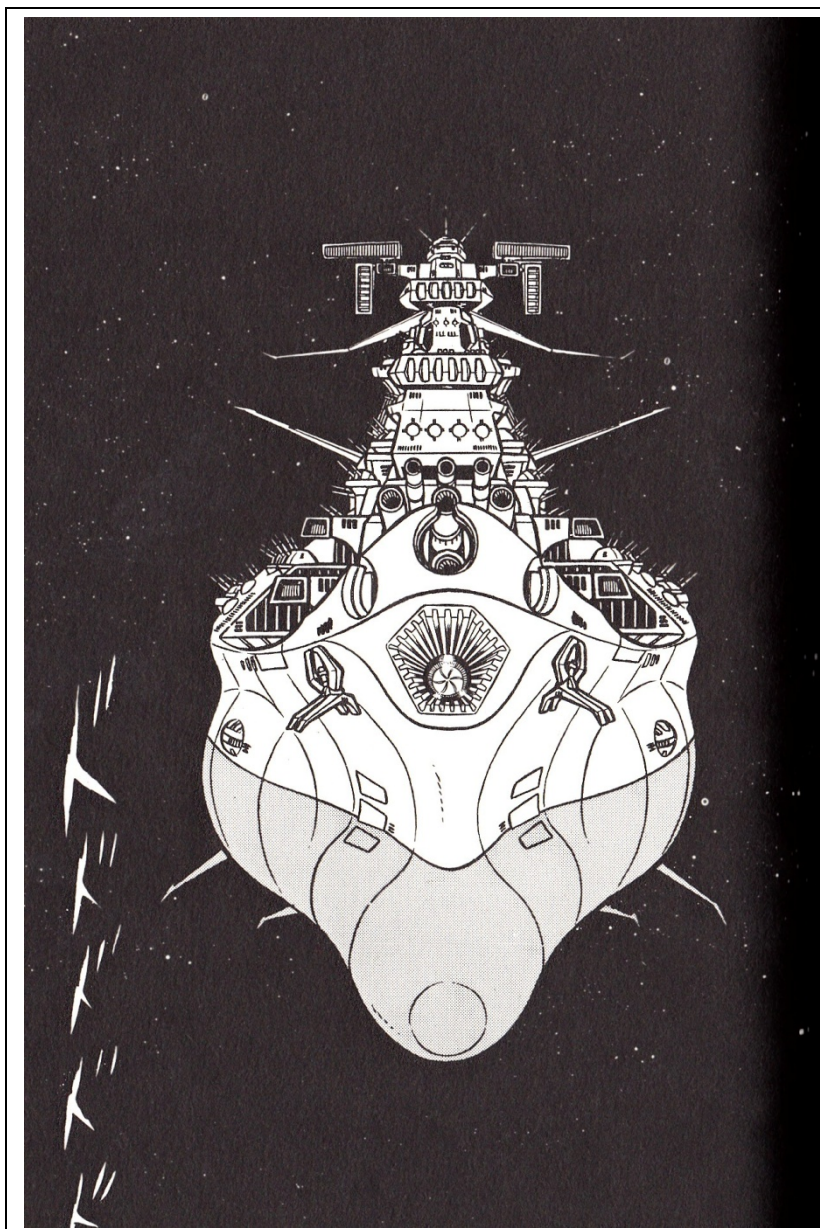


図 1.

ヤマト正面

細部の表現が凝らされているにもかかわらず、帝国海軍の象徴であった菊花御紋章は無い。艦首部六角形に描かれているものは「波動砲」。

松本零士 (1992) 『宇宙戦艦ヤマト 2 永遠のヤマト』 秋田書店 p.167。

松本零士の漫画作品の一つの特徴として機械の細密描写が指摘されるが、3 章にて述べたように、陸軍テストパイロットであった父に対する尊敬の念から推察し、松本は戦争が残忍性と表裏一体に内包する男性性までも否定するとは考え難い。しかしながら、松本はアジア・太平洋戦争を肯定している訳ではない¹⁴。

松本 1998 (平成 10) 年発表の SF 作品『超時空戦艦まほろば』に描かれた戦艦まほろば (以下、まほろば) は、旧帝国海軍が保有した「大和型の第四号艦」、「改大和型」、「正確には『まほろば型』の一番艦」と設定され、その甲板上正面の絵は帝国海軍の戦艦武蔵の写真を、その航行中を描いた絵は、戦艦大和の写真を参考にしていると推定し得る (図 2) ¹⁵。作品の設定で、同艦は戦艦大和の水上特攻の際に「敵の目を／くらましつつ...／密かに進撃し」、「立ち昇る／大和最後の／燃焼遠望しつつ.....／作戦の中止に／よって反

転した」と書かれている点から考慮し、1945（昭和20）年4月7日の作戦に参加している帝国海軍の戦艦に菊花御紋章が無いということはある得ない¹⁶。しかし、まほろばは松本ならではの細密描写で描かれているにもかかわらず、角度や陰影により、菊花御紋章のあるべき艦首部分の描写が巧みに回避されている。

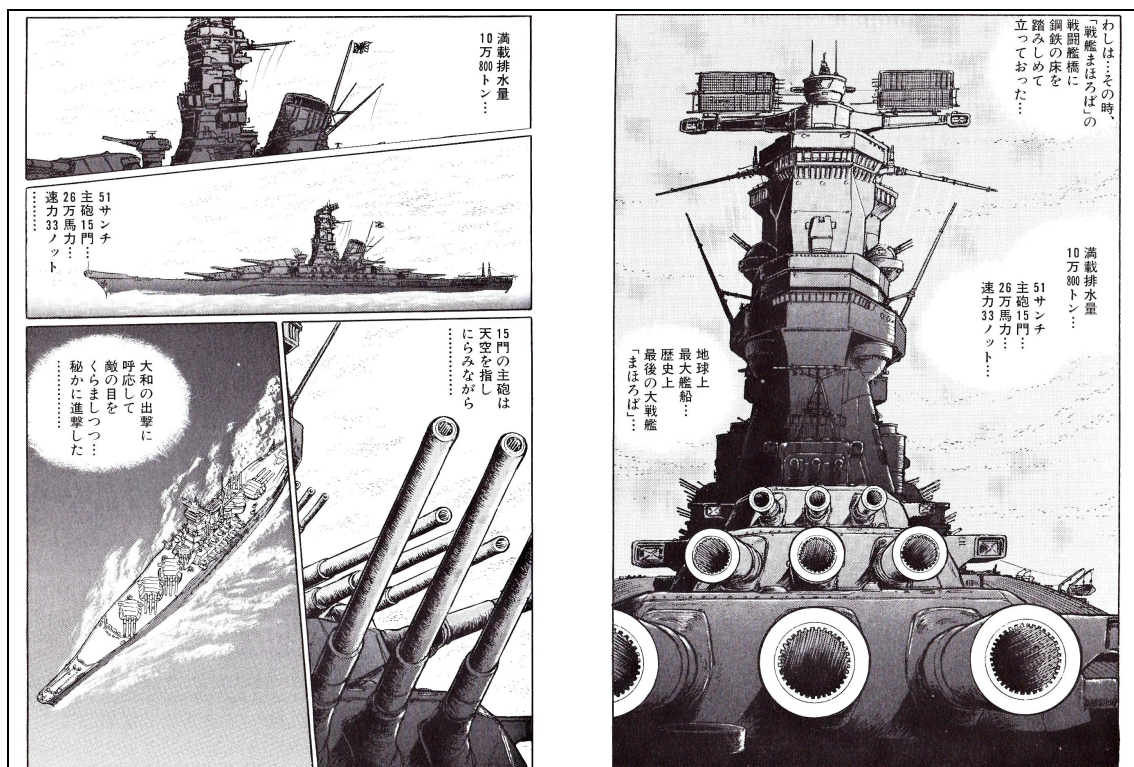


図2. 戦艦まほろば

松本零士 (1998)『超時空戦艦まほろば1』小学館 pp.16-17。

同作品は第1巻全3話、228頁、2巻全5話、250頁完結だが、まほろばの艦首描写は第2巻第4話まで避けられ、やむなく描かれた唯一の正面艦首に菊花御紋章は無く、髑髏らしき紋章が微かに認められるのみである¹⁷。そこで、『新 宇宙戦艦ヤマト』のヤマトまほろば会合場面を確認すると、まほろばの髑髏の紋章が明確に認められる¹⁸。

ヤマト以上に帝国海軍の大和に酷似したまほろばを描きながら、その艦首に菊花御紋章を描かない理由は那边にあるのだろうか。筆者はひとまず戦前の「ナショナリズム」との断絶が図られていると仮定するが、その回答は第1巻第2話に暗示されている。

第2話「燦・戦艦まほろばの復活」には豪華大型客船リベンジ・オブ・アース号（以下、アース号）が登場する¹⁹。同船は「心ゆくまで／戦い、／心ゆくまで／恨みを／晴らし...」「地球上の過去の／憎悪を／忘れ去るための／復讐者の船」である²⁰。船籍、船主共に無く、乗船者全てが責任を負うという。同船内には世界各国の兵士がティルト・ローター機で輸送されてきており、船内では表面上は各国平等であるが、実際には「各国の／立場が

／微妙に…」と差異が暗示されている²¹。船内では第二次世界大戦当時の火器の限定使用により決着するまで戦闘すべしと規定しつつも、実際には現代の火器が秘密裏に持ち込まれ、使用されているという内容である。

当該作品の設定は、現代社会に於ける第二次世界大戦の評価の差異があることを前提に、国際関係の現実を反映していると言えるのだが、作品には、終戦までの「国体」を含めた諸価値観と現代のその断絶を図ろうとする松本の意図が示唆されているのである。

しかし、松本が「戦艦漫画」作品の創作にあたり意図するところは過去との断絶のみではなかろう。もしそのみなら、まほろばの艦首にはヤマト同様菊花御紋章を描かないだけで十分であり、敢えて髑髏の紋章を描く必要はあるまい²²。松本は『新 宇宙戦艦ヤマト』創作の意気込みを「世界的規模の広がりを持つ艦にしようと思っています。乗組員は、地球上のあらゆる国の人々です」と語っている²³。戦闘行為による第二次世界大戦の決着も現実社会のパワー・ポリティクスも、理想社会から断絶されるべき故に、アース号は無船主、無船籍であり、乗船にはティルト・ローター機が使用されるのではあるまいか。また、まほろばが海上自衛隊のイーグス艦に遭遇し旭日旗を認める場面では、「あの旗を／掲げる日は／…二度と／あるまい…」と書かれており、まほろばには海上自衛隊のイーグス艦以上に帝国海軍との断絶が図られていると言える²⁴。従って、松本が断絶を望むものは帝国主義的ナショナリズム、パワー・ポリティクスであると推定し得る。

6 「死」の処方箋

6-1 ヤマトに於ける「死」の表現

松本零士が如何に過去との断絶を図り、且つまた未来への希望やロマンを描こうとも、作品の題名はいずれも「戦艦」を主題として示唆している。「戦艦」が活躍する背景には戦争が想定され、戦争には死がつきまとう。そこで本節では、松本が如何に死を取り扱い、如何に描いているか、作品から検証する。

松本零士『宇宙戦艦ヤマト 1 イスカンダル遙か』（以下、『イスカンダル遙か』）は全312頁で完結している²⁵。当該漫画作品に於いて、松本は何場面の戦闘を描き、死を描き、また其々に対し何頁の紙幅を割いているであろうか。

『イスカンダル遙か』は宇宙戦争を描いたSFであるため、複数の戦闘を含む艦隊同士の戦闘1回の他、敵艦隊対ヤマト1艦の戦闘、敵基地対ヤマトの戦闘の他、自爆攻撃、墜落、衝突等の戦闘場面が反復描写されている。しかし、それにもかかわらず、「死」の描写は極めて少なく、人間（及び宇宙人）の遺体（及び遺体らしきもの）が描かれた場面は4シーン8コマ（10コマ相当分使用）、動物の遺体（及び遺体らしきもの）は明白なギャグを含めて2シーン2コマで、使用紙幅は6頁、約0.019%である。

戦闘中、少なくとも味方艦3艦、敵空母1艦、敵艦隊司令官乗座の円盤1機は爆発して

おり、ヤマトも最低3回、複数箇所被弾している。被弾の内（弾丸ではないのだが）、「反射衛星砲」の攻撃を受けた際は船体が二つに割れる程の甚大な損傷を受けている。

しかし、このような激戦にもかかわらず、死者や負傷者は描かれておらず、松本が意図的に「死」の描写を避けていると推定される。松本自身執筆を回想し、「死を扱う話を描くのは、僕には大きな重荷だった」と書いている²⁶。そこで、僅かに描かれた「死」の場面を順に挙げ、死者、死因、使用紙幅、コマ数を示したものが次表である（表1）²⁷。

動物の死の描写が2コマ認められるが、豚の死は、ヤマト乗員の獣医佐渡酒造の医療ミスによるもので、後でその豚を「オカズ」にするというギャグ挿入の導入であるため検討対象から除外し、残り5場面を見ると、いずれの絵からも残虐性は感じられないであろう。以下、場面毎に検証したい。

死者・遺骸等	死因	紙幅数	コマ数
イスカンダル星人サーシャ	墜落死又は墜落後死亡	1	3
海水魚2匹以上	海水蒸発・被爆による死亡	1	1
豚	医療事故死	1	1
食糧庁長官	磁力銃（拳銃）自殺	1	1（4コマ使用）
ヤマト乗員4名	放射能被曝死	1	1
ヤマト艦長沖田十三	不詳	1	1（3コマ使用）

表1. 松本零士『宇宙戦艦ヤマト1 イスカンダル遙か』に於ける死亡

最初に、イスカンダル星人サーシャの墜落死の場面を検証する（図3）。墜落物体の前に横たわるサーシャの遺体に損傷は見られず、出血も無い。眠っているが如きサーシャの顔に、思わず発見者は「なんて／きれいな人だ...!!」と叫ぶが、この台詞により、作者の意図が美的描写にあることは間違いない²⁸。「あ.....／死んでる／!!」なる台詞のみが描写された「死」に確証を与えている²⁹。



次が海水魚2匹以上の、海水蒸発及び放射能による死亡描写であるが、魚の骨らしきものが僅かに描かれているのみである。「地球上の海は／蒸発してひ上がり…地上の生物を／みな殺しにして／しまった」と書かれているため、描かれている物体は海水魚の骨であろうと想像され、その骨らしき物体以外の不明瞭な描き込みも、恐らく海洋性動物の遺骸であろうと思われる³⁰。死亡描写と言うよりは、寧ろ干上がった海の描写である。

三番目に、食糧庁長官の自殺を検証する(図4)。描写には4コマ相当の紙面が使用されているものの、内2コマは拳銃を持つ手元のみ、1コマは閃光と音の描写で、遺体の一部が描かれたコマは1コマである。遺体の損傷、出血も無く、上半身の一部を斜め後ろか

ら描写しているため、表情も不明である。遺体発見の次のコマ内の「食料局長官は／地下都市の食料／のたくわえが残りすくな／なくなったの／を気にして／いたからな／あ……」という台詞が殉職を示唆している³¹。



四番目に、ヤマト乗員4名の放射能被曝死を検討する(図5)。2コマ目(上、左)下部に靴底が描かれており、人物が倒れていることがわかる。その人物は、背景から判断し、1コマ目で「ううっ／ガスだっ」と叫んでいる人物と想像される³²。しかし、当該人物が死亡しているか否か、判別は困難である。下段左コマの枠内左下部につま先の描写があり、その奥にうつ伏せに倒れた遺体が1体、そのすぐ奥にうつ伏せの下半身1体、更に奥に脚部の描写があり、恐らく4名であろう。画面奥の方に後ろ向きで立っている者は全て敵方

ガミラス星人で、マントを纏った総統デスラーの「見ろ地球の／人間どもめ／放射能をあびて／ヤサイのように／しなびて死んで／いるぞ」という台詞が無ければ、4名が死んでいるのか否か判別不能であるし、しなびているか否かもわからない絵である³³。



最後に、ヤマト艦長沖田十三の死の場面を検討する（図 6）。艦長室の椅子に腰かけた沖田の「わしの／生涯に／くいは……／ない」の言葉と、続く 2 コマで沖田の死が表現されている³⁴。いわゆる安らかな死の描写と言えよう。作品中、沖田が倒れた際の台詞に古傷が云々というものがあるが、それが死因とは考え難い。

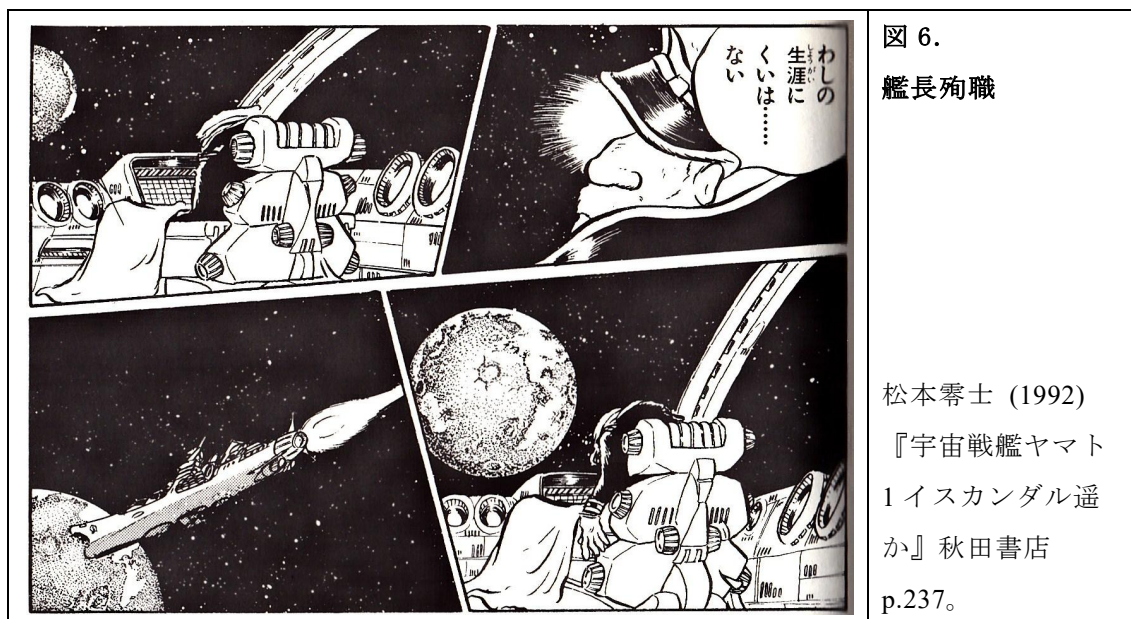


図 6.
艦長殉職

松本零士 (1992)
『宇宙戦艦ヤマト
1 イスカンダル遙
か』秋田書店
p.237。

以上、松本零士『宇宙戦艦ヤマト』には「死」の描写自体を避ける傾向が認められるとともに、「死」を描く場合も詳細な描写が認められない。遺体・遺骸が描かれた場合、損傷や出血は描かれず、死者の表情の描写も避けられている。サーシャや沖田艦長の「死」は「美」に昇華されているとさえ言えよう。

艦長沖田十三の死は、以後ヤマト乗員に特別な意味を持ったものとして描かれる。沖田艦長が死亡するも、ヤマトは無事地球に帰還し、物語は一旦完結する。しかし、帰還したヤマトの乗員たちが、沖田の二年目の命日に集結する。続編『宇宙戦艦ヤマト2 永遠のヤマト』（以下、『永遠のヤマト』）は、彼らが廃艦直前のヤマトに乗り再び宇宙へ旅立つ物語であるが、沖田の命日に彼らが集合する場所が、沖田の銅像の前なのである（図 7）³⁵。同作品内で沖田の死の瞬間は再現され、以降、沖田は幻影として、或いは乗員の心中描写として、反復して描かれている。不動の姿勢で巨大な沖田の銅像を見上げるヤマト乗員たちの姿の絵は、沖田が英雄たることを読者に了解させるのみならず、殉職した艦長が「このような礼遇を受けるべきである」というメッセージとしての機能が認められよう。即ち、現実社会でも公に殉ずることを称賛すべきという意味である。また、ロボットであるアナライザーが、ヒューズの役を買って出た際、「ワタシハ／男デス」「ボクハ／男ダ！！／チガイ／マスカ？」と発話する場面で、「男ハヤラネバ／ナラヌ時ガア／ルト沖田艦長／ガヨクイッテ／マシタ」という台詞があり、沖田が男性性の象徴たることが示唆されている³⁶。従って、沖田の銅像を描くことは殉職と男性性の結合を表現していると言え、「公」の肯定として理解される。



図7. 沖田の銅像

次コマには斜め前方の絵があり、銅像の台座に沖田の名が刻まれている。

松本零士 (1992)
『宇宙戦艦ヤマト
2 永遠のヤマト』
秋田書店 p.25。

興味深い事に、『永遠のヤマト』全323頁中に戦闘場面が殆ど無い。会戦に於ける被弾1発と衝突した敵艦の自爆によるヤマトの損傷は軽微で、乗員に戦死者は無い。同書巻末の「永遠のジュラ編」を含めても「死」が描かれたコマは皆無である³⁷。また、「永遠のジュラ編」には生前の沖田が艦長席の椅子で見た幻覚が描かれ、幻覚の中で沖田は先に戦死した部下たちの霊に「男らしく／責任を／とって／死ぬべきだ」と自決を迫られている³⁸。全ては幻覚として描かれているが、『宇宙戦艦ヤマト』の本編が完結した後の「永遠のジュラ編」に描かれることにより、沖田の殉職は戦死者全員の死の象徴としての意味付けがなされており、その殉職は「男らしい」死であったことを暗示しているのである。幻覚としての「死」を除外すると、『宇宙戦艦ヤマト』全635頁に於ける「死」の紙幅は全体の

約 0.008%である。

以上の分析から、松本零士『宇宙戦艦ヤマト』に於いては、「死」の現実的イメージを遠ざけた視覚素材が無邪気で屈折したナショナリズムを支えていると言える。上記に挙げた例から結論し得る「死」の意味付けは、「美」としての意味付けである。艦長沖田十三の死は「荘厳」にまで昇華されているとともに、漫画内で銅像として描かれることにより男性性の不可侵の象徴となっているのである。しかし、松本の主題は「生命」であり、父性に代表される男性性であり、ナショナリズムは「地球にいる者は／全員集まったよ」という佐渡酒造の台詞により最大限に希釈されている³⁹。主題に関して松本は、『ヤマト』制作に際し、「アニメーションを作るという、かねてからの夢がかなったわけではあるが、正直なところ『よりによって戦艦大和か』と気が重かった」と回想し、父親強氏がよく言っていた言葉―「人は生きるために生まれるのであって、死ぬために生まれるのではない」―が「『ヤマト』のメインテーマになった」と書いている⁴⁰。

6-2 まほろばに於ける「死」の表現

前節に続き本節では松本零士『超時空戦艦まほろば』第一巻 228 頁、第二巻 250 頁を精査する。まほろばは、ヤマト同様旧帝国海軍の戦艦という位置づけであるが、時代設定は未来以外に解釈不能である。しかし、作品冒頭、主人公の大山歳郎が元帝国海軍の軍人だという老人に出会っており、限りなく現代社会に近い世界観が展開されている。

前節同様、作品内に描かれた「死」の場面を順に挙げ、死者、死因、描写コマ数を表にしたものが次表である（表 2）⁴¹。

死者・遺骸等	死因	紙幅数	コマ数
1.旧帝国海軍軍人の老人	火災による火傷	2	4～8(5 コマ相当)
2.ドイツのメンバーのガイド	銃撃戦による射殺	1	4
3.戦闘員 2 名と秘書 1 名	砲爆殺	1	1
4.戦闘要員ビデオ撮影者	射殺	2	1～4(5)(不明 1)
5.戦闘要員 1 名	射殺	1	2
6.戦闘要員 1 名以上	射殺等		1
7.戦闘要員 3 名	射殺等	1	1
8.不明（女性、秘書？）2 名	射殺等		1
9.足立教授	射殺	2	2～7
10.大山巖右衛門	射殺・自爆死	2	6+2（手のみ）

表 2. 松本零士『超時空戦艦まほろば』に於ける死亡

第一巻では、まほろばと思想的に対峙するアース号の船内での戦闘が主に描かれ、両艦艇は1回の交戦で、アース号が爆沈されたことが示唆されているのみである⁴²。アース号の爆沈場面5コマと、元乗員の老人の天号作戦回想場面4コマを含め、第一巻の戦闘場面は明確なもので4シーンが確認でき、18コマで表現されている⁴³。

最初の「死」の場面は、元まほろば乗員の老人の火傷による死であるが、戦闘行為とは無関係の「死」である⁴⁴。

次は、自動小銃を握ったまま手すりにもたれ死亡している（推定）女性ガイドであるが、出血と長髪と区別が付き難く凄惨な印象は低い。自動小銃の所持が、銃撃されるべくして銃撃されたことを示唆している絵である。

以降の「死」の場面を表2の順で見ると、3、4、5、6と共通して死亡推定を含め「死体」の表情描写が無い点が指摘される。倒れている人体は小さく描かれたり、うつ伏せに描かれたり、身体の一部のみが描かれているのである。5の場合、銃を描いたコマの左端に銃創のある右手が描かれているため、筆者はそれも1コマとして計算している。

表2の7、8は同一頁で連続している。中段に戦闘員3名の遺体（推定）と下段に「秘書」と推定される女性2名の遺体（推定）が描かれた銃撃戦後の場面である。倒れた身体に多数の銃創が描かれ、出血と推定される描写が認められる。しかし、銃創を描いた以上描かざるを得ない最低限度の出血描写である。黒インクによる、いわゆるベタの血液ではない。筆者は女性2名の死亡を推定するが、ヒロインは同様の銃撃を受けても特殊な防弾スーツにより死亡を免れているため、これを理由に死亡断定を避けたい。

最も紙面が割かれている場面が9番目、乗艦していた老教授が頭部銃撃により死亡するシーンで6コマである（図8）。老教授足立の「すぐ死ぬ…」という台詞と頭部被弾により「死」が暗示されているが、頭部の銃創と額の血液（？）の流れる方向は一致せず、且つまた血液か汗か不明瞭な描き方がなされている。

また、第一巻第3話「超戦艦まほろば」には特異な「死」の表現が認められる。ヒロインが「お墓」と言ったとされる艦内の或る場所に「大戦中、／シブヤン海に／沈んだ／大戦艦武蔵の／乗組員」たちの無数の棺があり、2頁の紙幅に4コマで描かれている⁴⁵。しかし、それは（第二次世界）大戦の戦死者であり、異次元の死者が棺に「眠っている」姿である⁴⁶。作品の特異な世界観を示唆する演出と理解されるため、検証の対象外とする。

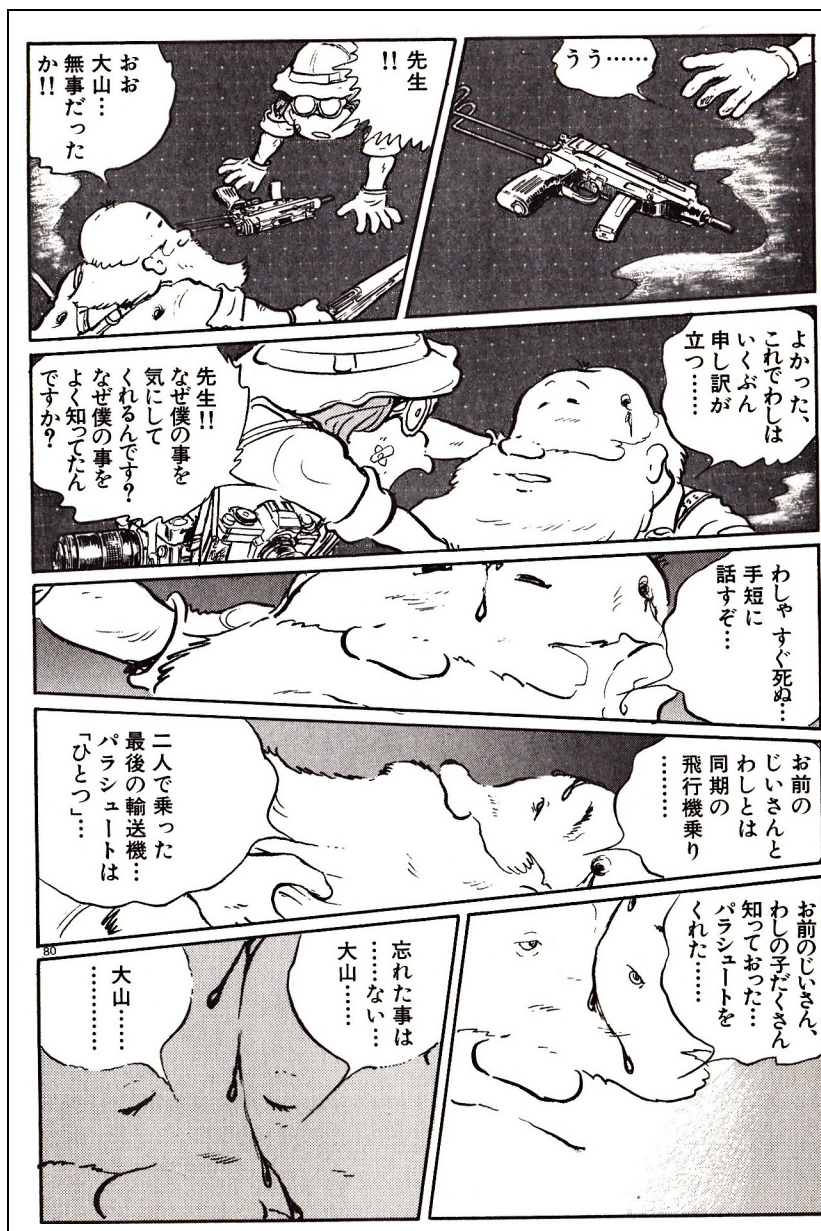


図 8.
頭部銃撃

最初のコマのうめき声と手の主は大山。

続くコマで「先生」足立教授は「じいちゃんと／父ちゃんに／よろしく…」と言い残す。

松本零士 (1998)『超時空戦艦まほろば 1』小学館 p.108。

第二巻には米軍機による爆雷の他、2 回の海戦が描かれている。しかし、そこには人間の死亡が 1 コマも描かれていない。寧ろ、米軍機は無力化され、脱出した搭乗員はまほろばに救助されている。最大 11 コマ使用された艦上或いは艦内に於ける戦闘行為は、破壊活動と銃撃戦が 3 シーン描かれているが、内 2 シーンの各コマの絵は、うつ伏せに倒れた人物と銃撃の瞬間を描いており、人物の生死が不明である。11 コマの内、主人公大山歳郎の祖父を示唆する大山巖右衛門大尉が頭部を銃撃された後自爆死するまでの表現には連続 6 コマが使用され、2 コマ置いて大山大尉のちぎれ飛んだ手が 2 コマ描かれている（図 9）。『まほろば』を通し最も克明に描かれた「死」であり、壮絶な「死」である。

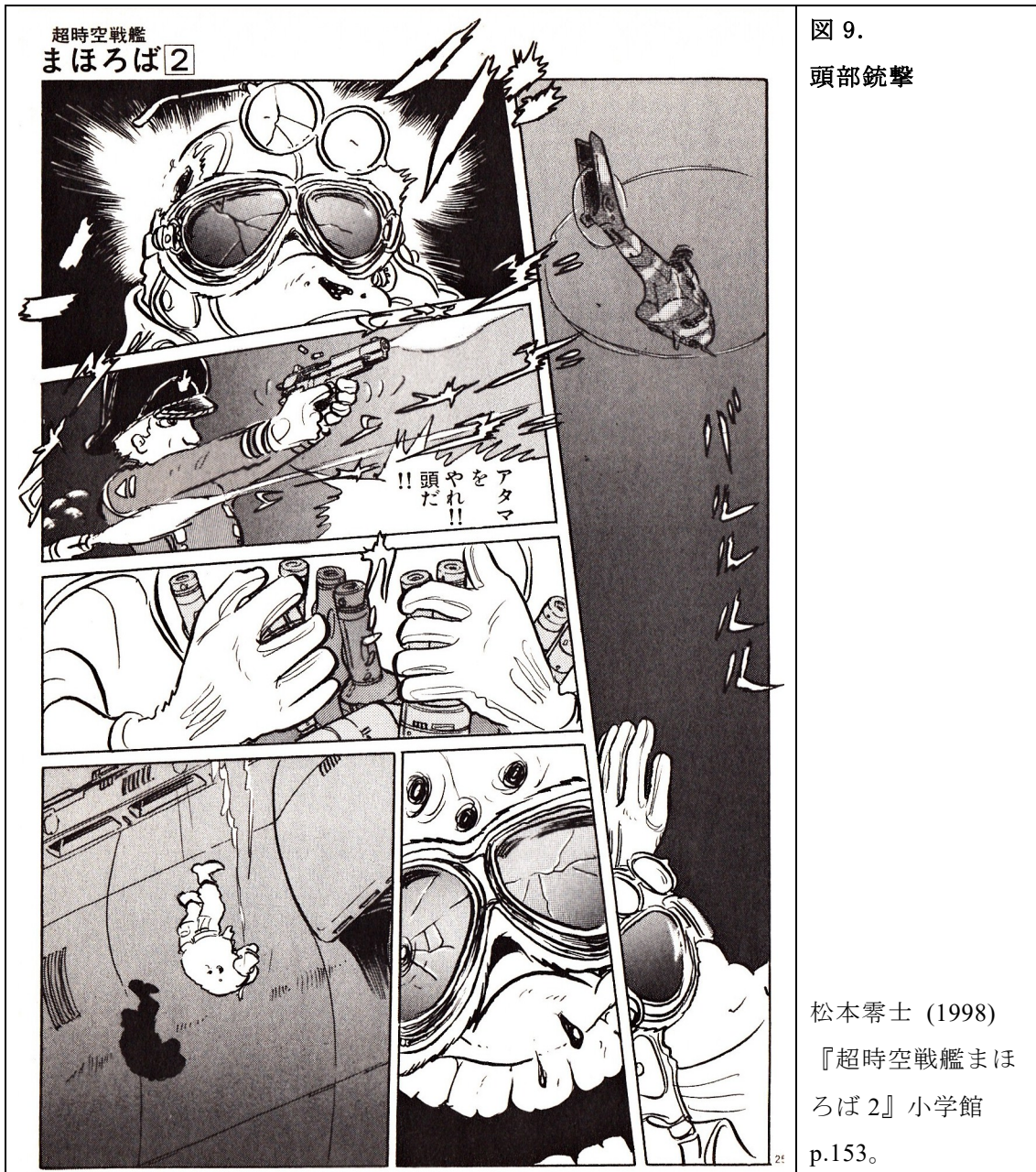


図 9.
頭部銃撃

松本零士 (1998)
『超時空戦艦まほ
ろば 2』小学館
p.153。

しかし、大山巖右衛門は、同作品内で 1944 年に戦死していたことが明かされており、過去に於いて戦死した人間が、再度戦死したという意味が明示されている。つまり、読者が見ている「死」は、生身の人間の死ではないのである。この世界観の設定は、「死」を描きつつ、それを「死」の幻影としてしまう、いわば安全装置として機能している。

松本零士『まほろば』の「死」の表現に割かれた紙幅は 12 頁で、約 0.025%である⁴⁷。以上の検証から、『まほろば』に於いても『ヤマト』同様、「死」の描写は極力避けられていると言える。更に、「超時空戦艦」化により時空を超え、「死」が現実世界の死亡ではなく、死者の世界の死として理解される。換言すれば、「死」の幻影化により読者を現実的な「死」から遠ざけているのである。

7 ヤマト 2199

松本零士は漫画作品に於いて戦艦大和を宇宙戦艦ヤマトとして蘇生させ、前後作品の複合的要素が認められる松本作品に於いて主要な構成要素としている。即ち、「ヤマト化」の成功である。筆者は成功要素として、二つの否定と一つの肯定を指摘したい。即ち、1) 国家主義の否定、2) 死の否定（即ち、生の肯定）、そして3) 「公」の肯定である。

「ヤマト化」の成功要素は2010（平成22）年以降のヤマトにも継承されている。2012（平成24）年に劇場公開され2013年よりテレビ放映された『宇宙戦艦ヤマト2199』（以下、『ヤマト2199』）は、劇場公開同年にむらかわみちおにより同題名で漫画作品化され、単行本は2016（平成28）年で8巻に至っている⁴⁸。同漫画作品は、第何話のような下部分類が無く各巻完結し、全1279頁で構成されているが、『宇宙戦艦ヤマト』のリメイクであるため、概念設定の基本に大きな変更は無い⁴⁹。

本章では、むらかわみちお『ヤマト2199』がリメイクたる事を前提に『宇宙戦艦ヤマト』との共通点と相違点を指摘したい。まずは艦首の確認であるが、第1巻のカバーイラストがヤマト全体を前方左舷側から描いており、菊花御紋章の無いことは容易に確認できる。既に御紋章の無いヤマトが前提と言えれば当然と言えるのだが、「腑に落ちなかった部分を補完するためのファクター」が多分に導入されている『ヤマト2199』に於いても、御紋章の無い理由には全く触れられていない⁵⁰。

一方、『ヤマト2199』の人物描写は、結城信輝によるキャラクターデザインが基本になっており、若い男女が輝く大きな瞳を持ち、いわゆる「萌え」調で描かれている点が松本零士の『宇宙戦艦ヤマト』と異なる特徴である（図10）。「萌え」調と出血を伴う「死」の描写が調和し難い事は想像に難くないだろう。全8巻1279頁中、「死」が描かれている紙幅は全28頁（約0.022%）37コマで、怪我のみを含めた血液描写は全34コマである。しかし、「死」や「出血」は第6巻の記憶描写場面に集中しており、死亡推定を含めても、読者が体験的に見る「死」は全11頁で約0.009%、「出血」は27コマである。言語表現としても、艦長沖田の発話として「ヤマトの／目的は／殺戮と破壊／ではない」と明言されている⁵¹。従って、『ヤマト2199』に於いて「死」は一層避けられる傾向にあると言える。

また、中高年の男性キャラクターは概して深い彫りのある顔や髭により男性性が強調されている。男性性の強調は言語表現としても、「明日のために／今日の屈辱に／耐えるのだ」「それが男だ」、「男なら戦って／戦って戦い抜いて」が認められる⁵²。男性性に加え、本作では敵方に於ける父性も明確に描かれている。前線基地司令官シュルツ大佐と副司令、作戦参謀が擬似父子関係にあり、後二者の会話には「大佐を父と／仰いでおります」、「自分も父と思い／慕っているのだ」と明確に言語化されている⁵³。作品には戦地の父を心配するシュルツ大佐の娘（少女）も頻繁に登場し、敵方描写に於いても味方同様に人間関係、感情が描かれている。

一方、敵味方を問わず若い女性は身体の輪郭が強調されて描かれるとともに、性的ポーズ、制服のデザイン、場面設定の工夫による身体露出などにより女性性が強調されている(図10)。また、男性に於いても、敵方総統デスラーの全裸後ろ姿が見開きで描かれており、「萌え」と性描写は戦闘描写に合わせ本作品の娯楽性を支える主要な構成要素となっている⁵⁴。しかしながら、性描写は生物としての本質描写とも言え、むらかわは、敵方女性士官の身体検査結果を聞いた艦長沖田に、「まぎれもなく／我々と同種同族の」「『人類』／ということだ」と語らせている⁵⁵。本作品を通し、科学技術への懐疑は主要な視座であるが、それは、最終巻に於いて主人公の「波動砲」使用による生態系破壊への後悔で一場面を構成するなど明確化されているのである⁵⁶。

章末にあたり、本作品の結末に言及しておきたい。本作品の前提として、一部の人類を地球から脱出させる「イズモ計画」から地球の環境回復を企図する「ヤマト計画」への変更がある⁵⁷。第8巻ではヤマト艦内で「イズモ計画」派の反乱が発生、鎮圧されて作品は幕を下ろしている。

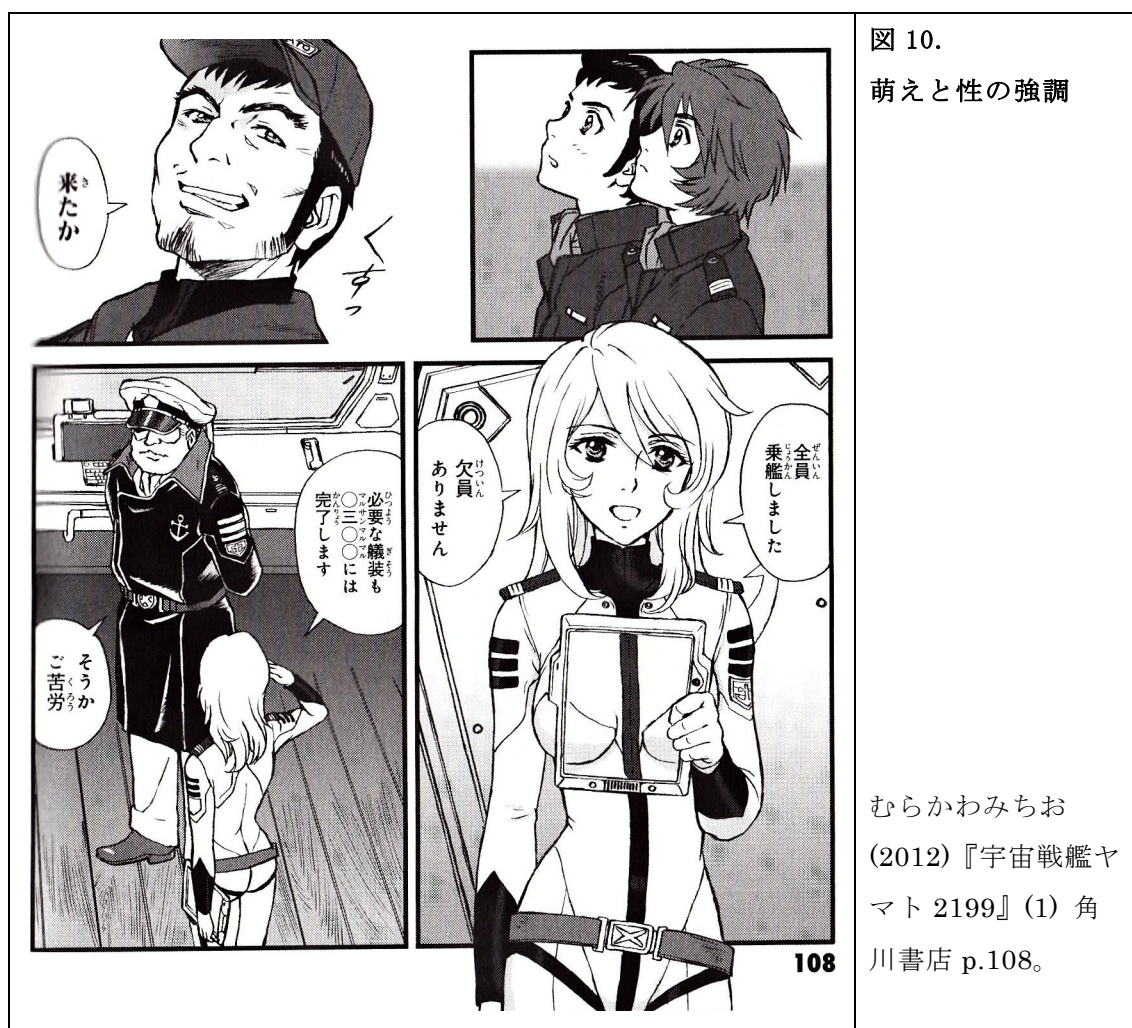


図10.
萌えと性の強調

むらかわみちお
(2012)『宇宙戦艦ヤマト2199』(1) 角川書店 p.108。

8 結論

松本零士『宇宙戦艦ヤマト』は国家主義的、帝国主義的ナショナリズム、「天皇制」としての「国体」を否定しつつ、また「死」の描写を避けつつ殉職を英雄視することを説いている。或る意味では、戦後民主主義下のモデル的漫画作品と言えよう。

しかし、干上がった海底の土を振り払い宇宙へ飛び立ったヤマトには廃艦処分が決定された。作品の結末は読者をして同情に似た寂寥感を持たせるのではなかろうか。

松本零士をしてこのような結末を創作させたものは何であろうか。「否定すべき戦前」と「肯定すべき戦後」の狭間で消失した何物か—理念で忌避しても忌避し難い空想的「美」—に対する哀愁ではなかろうか。本稿冒頭に吉本隆明を引用したが、吉本はヤマトに「時代や制度や権力や空間概念が変わっても、変わりばえのしない日本的心性の世界」を見るべき旨を書いている⁵⁸。空想的美とは、例えば、忠臣蔵の討ち入りの夜の雪、或いは会津白虎隊の少年の血に表象され、演劇として反復上演されてきている。それはもはや「日本的心性」なる実証不能の概念を持ち出さざるを得ないものであるが、そこに美を認める可否かたる問題を措けば、表象されている本質は敗者の精神性である。ひとびとに共有される美意識—「美」を措くとすれば精神性—の共有、そこには私的利害損得を超越し「公」に殉ずることへの憧憬が見出される。

『超時空戦艦まほろば』の1コマに「大和と武蔵の魂魄の宿る」艦なる文がある⁵⁹。そのまほろばは、船内で戦闘行為を継続させるアース号を撃沈し、また、シブヤン海に沈んでいる帝国海軍の戦艦武蔵に接近する如何なる者も拒否するのである。同作品内に「大和と武蔵の魂魄」の何たるかは明示されていないが、筆者はそこに松本零士の精神性を認めるのである。終戦後自衛隊への入隊を拒否し貧困生活を甘受した父親を「本当のサムライ」と尊敬し、自身も進駐軍兵士がばら撒いた菓子の食べたさを我慢し、それを下駄で踏みつけた松本である。それ故松本は「サムライ」として、敗者がその精神性の高さや正義を語ることを潔しとしなかったのではあるまいか。ペンネーム「松本零士」の「士」は「サムライ」である。松本は旭日旗を掲揚し国連軍に参加したイージス艦の自衛官に涙を流させ、「まほろばには我々が失くした猛々しさがある！！」と叫ばせている⁶⁰。

松本は戦死者の精神性を認めるのであるが、徹底して戦前の価値観との断絶を図っている。帝国海軍の戦艦大和をモデルにした漫画を描きながら、その象徴たる菊花御紋章は描かない。それは「天皇制」の否定なる単純なものにあらず、帝国主義の否定、武力による国際問題解決の否定、国家間の序列の否定である。

松本零士は戦艦大和を換骨奪胎し、戦争自体をエンターテイメントに転換したが、それは戦争の美化にあらず、戦争の忌避である。『新 宇宙戦艦ヤマト』にはまほろばが登場し、ヒロインも『まほろば』と同一人物で、思想的連続性が示唆されている。『新 宇宙戦艦ヤマト』には戦闘行為が一切認められず、全地球人对ブラックホールとの戦いとなっている。

のである。しかし、本研究に於いて分析した松本漫画作品の底流には敗者の精神性が認められ、それは国家主義的ナショナリズムを否定し地球的ナショナリズムへ、更には「平和」愛好地球市民的なナショナリズムへ変換され、甘美な宇宙へのロマンとして描かれている。国家と断絶し「死」の描写を避けるナショナリズムのロマン化パラダイムは、爾後のヤマト作品に継承されてゆくのである。

本研究では、松本零士によるナショナリズムのパラダイム変換を「ヤマト化」と呼称し、それを踏襲或いは継承した最新事例としてむらかわみちお『宇宙戦艦ヤマト 2199』を取り上げた。同作品は後年に進む程「エロ・グロ」化が顕著になるが、最終巻では一部の人類の移住を図る「イズモ計画」が否定され、全地球を救う「ヤマト計画」への回帰で終幕している。地球市民的ナショナリズムの肯定と理解されるが、「ヤマト」なる「日本的心性」、「公」への憧憬からは逃れられないのである。

9 おわりに

国家主義的ナショナリズムは衆目を引き、必ずや一定数の反対論を伴う一方、民権論に見られるようなひとびとのナショナリズムは無自覚な身体的思想として心の中に存在し得る。「日本的心性」とは、善悪の価値観の外に存ずるナショナリズムにはほかならない。日本及び日本語の学習者に於いて日本のナショナリズムを把握することは「日本の心」を理解することであり、ナショナリズムは嫌悪・忌避すべき対象ではない。

付記 本研究は2018年国際基督教大学大学院博士論文『小林よしのり「思想漫画」の特徴—「公論ナショナリズム」と娯楽』を構成する一章を基盤に発展研究したものである。

注

- 1 吉本隆明 (2009) 「『さらば宇宙戦艦ヤマト』の魅力」『吉本隆明全マンガ論』小学館クリエイティブ pp.94-101
- 2 戦艦大和は大日本帝国と大日本帝国海軍の表象。菊花御紋章を「天皇制を表象する」とする根拠は、法的には「十六葉八重表菊形」を定めた皇室儀制令第12条。菊花御紋章は本来後醍醐天皇が個人的に使用した紋章・お印で、皇室の御紋は日月紋であるが、実質的に国章として使用されており、「天皇制国家」を表象している。
- 3 Mosse, George L *Fallen Soldiers*. New York: Oxford University Press, 1990. 邦訳はジョージ・L・モッセ著・宮武実知子訳 (2002) 『英霊』柏書房。
- 4 前掲書 p.67。
- 5 吉本隆明 (よしもと たかあき 1942-2012) 詩人、評論家、思想家。2006年、東京工業

- 大学世界文明センター特任教授に着任。いわゆる戦中派知識人、「戦後思想界の巨人」。
- 6 兄1人と姉2人、後に弟2人と妹1人が誕生。
 - 7 MdN Design Interactive 連載、コラム「BRUSH-STROKE」所収「松本零士×MdN Design Interactive スペシャルインタビュー 描くことを通して松本零士氏が語るモノづくりへの信念」取材・文：草野恵子<<http://www.mdn.co.jp/di/articles/2806/>> (2020.3.25 閲覧)。
 - 8 松本零士オフィシャルサイト「Profile」<<http://leijimatsumoto.jp/profile>> (2020.3.25 閲覧)。
 - 9 松本零士 (2008)『遠く時の輪の接する処』東京書籍 p.111。
 - 10 クレジットでは松本が監督とされたが、実際に監督を務めたのは原作者の西崎。
 - 11 アンヌ・モレリ (2002)『戦争プロパガンダ 10 の法則』思想社 (参考)。
 - 12 松本零士版の他、聖悠紀、ひおあきら、コミックアンソロジー、むらかわみちお・西崎義展、東まゆみ・西崎義展、の各版がある。
 - 13 「地球司令部」の要員も全員日本人と思われる。「ナショナル」を一元的に「国家」とせず「ひとびと」と理解すれば、「ナショナリズム」なる語は適切だが、誤解を避けたい。尚、2001年の『新 宇宙戦艦ヤマト』では、乗員の多国籍性が明示されている。
 - 14 本稿では、第二次世界大戦に於けるアジア・太平洋地域での戦争呼称を「アジア・太平洋戦争」とする。
 - 15 松本零士 (1998)「戦艦まほろば」『超時空戦艦まほろば 1』小学館 pp.5-28。戦艦武蔵は大和型二番艦であり、甲板上正面図は武蔵竣工後 1942 年の、航行図は大和公試運転中 1941 年の写真を参考に行っていると思われる。
 - 16 「天号作戦 (天一号作戦)」に従い沖縄方面へ出撃した戦艦大和は、1945 年 4 月 7 日、坊ノ岬沖海戦で爆沈。
 - 17 「『超時空戦艦まほろば』第 x 集—完—」と記載の頁までを数える。
 - 18 松本零士『新 宇宙戦艦ヤマト』に於いてヤマトは「僚艦」まほろばと会合する。
 - 19 松本零士「燦・戦艦まほろばの復活」松本前掲『超時空戦艦まほろば 1』pp.29-128。
 - 20 前掲作品 p.87。
 - 21 ティルト・ローター [tilt-rotor] 機：垂直 (或いは短距離) 離着陸が可能な航空機、V-22「オスプレイ」など。
 - 22 第二次世界大戦期に艦首に国章等を装着した例は大日本帝国海軍以外に確認されない。
 - 23 松本零士 (2001)『新 宇宙戦艦ヤマト』(1) 小学館、カバー。
 - 24 松本零士「超戦艦まほろば」松本前掲書 p.224。
 - 25 「『宇宙戦艦ヤマト』第①巻／完」と記載の頁までを数える。
 - 26 松本前掲『遠く時の輪の接する処』p.165。

- 27 紙幅数はコマの大小を問わず「何ページに渡るか」を示し、面積を示すものではない。
- 28 松本零士 (1992)『宇宙戦艦ヤマト 1 イスカンダル遙か』秋田書店 p.12。
- 29 前掲書 p.12。
- 30 前掲書 p.26。
- 31 前掲書 p.208。
- 32 前掲書 p.228。
- 33 前掲書 p.228。
- 34 前掲書 p.237。
- 35 松本零士 (1992)『宇宙戦艦ヤマト 2 永遠のヤマト』秋田書店。
- 36 前掲書 p.31。
- 37 松本零士「宇宙戦艦ヤマト永遠のジュラ編」前掲書 pp.289-323。
- 38 前掲作品 p.305。
- 39 松本前掲『宇宙戦艦ヤマト 2 永遠のヤマト』 p.25。
- 40 松本前掲『遠く時の輪の接する処』 p.164、p.168。
- 41 死亡を確定するに足る文言が認められないものは「推定」とする。また、アジア・太平洋戦争で戦死した戦艦武蔵乗員の棺が 2 頁 4 コマに描かれているが、これは除外する。
- 42 松本零士 (1998)『超時空戦艦まほろば 1』小学館 p.122。老人の回想場面では、1945 年 4 月 7 日の坊ノ岬沖海戦が描かれているが、遠景 2 コマと立ち上る煙 1 コマである。
- 43 注 16 参照。
- 44 松本前掲『超時空戦艦まほろば 1』 p.10。
- 45 前掲書 p.186、p.188。
- 46 前掲書 p.188。
- 47 棺の絵は対象外とする。
- 48 アニメ版と漫画作品（コミック）版は内容に相違が認められる。
- 49 「宇宙戦艦ヤマト 2199 第 x 巻／完」と記載の頁までを数え、図録等は除外するが、第 5 巻には当該表記の頁が無い。
- 50 ヤマト正面を水平角度から描いた絵は第 4 巻 99 頁、第 5 巻 69 頁、第 6 巻 37 頁、第 7 巻 78 頁に各 1 コマ確認される。出渕裕・辻壮一（インタビュー）「出渕裕インタビュー」むらかわみちお (2013)『宇宙戦艦ヤマト 2199』(3) 角川書店、頁数記載なし。
- 51 むらかわみちお (2013)『宇宙戦艦ヤマト 2199』(2) 角川書店 p.94。
- 52 むらかわ前掲書 pp.159-160。
- 53 むらかわみちお (2013)『宇宙戦艦ヤマト 2199』(3) 角川書店 p.45。
- 54 指摘の傾向は後年に顕著化する。2014 年発行の第 5 巻では 5 頁に渡り女性の入浴シーンが描かれ、2015 年の第 6 巻では、流血、同性愛、女性器を暗示する服飾デザインな

ど、いわゆるエロ・グロ化が顕著となる。

- 55 むらかわみちお (2014)『宇宙戦艦ヤマト 2199』(5) 角川書店 p.111。
- 56 むらかわみちお (2016)『宇宙戦艦ヤマト 2199』(8) 角川書店 pp.84-85。
- 57 むらかわみちお (2012)『宇宙戦艦ヤマト 2199』(1) 角川書店 p.76、p.90、p.92。
- 58 吉本前掲論文 pp.94-101。
- 59 「大和と武蔵」とは、実在した帝国海軍の戦艦を指す。松本前掲「超戦艦まほろば」pp.190-191。
- 60 松本前掲作品 p.225。

参考文献

漫画作品

- 松本零士 (1992)『宇宙戦艦ヤマト』(1～2) 秋田書店
- 松本零士 (1998)『超時空戦艦まほろば』(1～2) 小学館
- 松本零士 (2001)『新 宇宙戦艦ヤマト』(1～2) 小学館
- むらかわみちお (2012～2016)『宇宙戦艦ヤマト 2199』(1～8) 角川書店

著書・著述

- 松本零士 (2008)『遠く時の輪の接する処』東京書籍
- 明治史料研究連絡会編 (1957)『民権論からナショナリズムへ』御茶の水書房
- 吉本隆明 (2009)『吉本隆明全マンガ論』小学館クリエイティブ
- 吉本隆明・田近伸和 (2002)『私の「戦争論」』筑摩書房
- アンヌ・モレリ (2002)『戦争プロパガンダ 10 の法則』思想社
- Roman Rosenbaum ‘Introduction: the representation of Japanese history in manga’ Roman Rosenbaum “Manga and Representation of Japanese History” Routledge, 2013, Oxon, pp.1-17

インターネット上の資料

- 宇宙戦艦ヤマト 2199 公式ホームページ「宇宙戦艦ヤマト 2199」<<http://yamato2199.net>> (2020.3.28 閲覧)
- 松本零士オフィシャルサイト「Profile」<<http://leijimatsumoto.jp/profile>> (2020.3.20 閲覧)
- MdN Design Interactive 連載、コラム「BRUSH-STROKE」所収「松本零士×MdN Design Interactive スペシャルインタビュー 描くことを通して松本零士氏が語るモノづくりへの信念」取材・文：草野恵子<<http://www.mdn.co.jp/di/articles/2806/>> (2020.3.20 閲覧)